

幸手市立権現堂川小学校 学力保障グランドデザイン



学校の教育目標

自分から行動できる子

- すすんで学ぶ子
- たすけ合う子
- きたえる子

学校研修課題

自ら学び、考え、表現できる児童の育成
-学びあい、支えあう授業づくりをとおして-

本年度の重点

- ①協働的な学びをとおした「ケアの教室」づくりで個別最適化を実現
- ②PBLを主とした授業づくりの実現
- ③授業時数特例校制度を生かし教科横断的・持続的な学びを実現
- ④家庭・地域・諸機関等の多様な教育力活用をとおした「地域コミュニティとしての学校」の実現

目標達成の指針

- ①全国学力・学習状況調査 平均正答率
- ②埼玉県学力・学習状況調査で学力の伸びた児童の割合
- ③幸手市統一学力調査 平均正答率
- ④家庭学習で学年目標時間を達成した児童の割合
- ⑤学力向上週間(年間定期に設定)+長期休業期間

学びあい 支えあい 高めあい 笑顔あふれる学校を目指して

学校の共通行動



※教師が専門家として学びあう学校の実現

児童が学び続ける授業の在り方を追究し、プロジェクト型学習(PBL)を踏まえた「課題」「学びあい」「ふりかえり」のある授業づくりを進めます。

※主体的-対話的で深い学びの実現へ

学習のしかたや学び・探究のしかたを確実に育み、聴き合う関係づくりや自他を尊重する態度を養います。また、保護者や地域にご理解を得ながら主体的な学びに取り組みます。

※児童の学びを見取り、一人も取り残さない教室

自分のペースで課題に取り組み、必要に応じて教材-教具を活用した学びを教師が見取り、一人も取り残さない教室を実現します。協働的な学びで個別最適化を推進します。

※ケアの学校・ケアの教室づくり

多様な児童に対応するため、保健室の機能や教育相談体制を強化し、ケアリングを中心に据えた学校づくりを進めます。

授業外での取組



※タブレットの利活用

タブレット端末を家庭に持ち帰り、ドリル学習をしたり、探究の学びを続けたりしています。臨時に休業日とする場合には、オンラインでの学習や連絡をおこないます。

※詩の暗唱への取組

「今月の詩」の暗唱に取り組み、暗唱できた児童に、ミニ賞状を渡します。児童に読むことの楽しさを味わわせ、作品を深く読み込もうとする関心・意欲を高めます。

※学力向上週間の設定

中学校区で始まった「中間・期末テスト」と同じ時期に行う「学力向上週間」を、中学校のテスト形態が変わっても本校では年5回の機会を設定して取り組みます。「コパトン問題集」や「復習シート」などのプリント課題や、タブレットでクラウドにアクセスしておこなう学習も準備しています。

確かな授業実践



※わからないことを聴き合える環境づくり

わからないことは「教えて」と聞くことで対話が生まれ、学びが深まります。聞かれた時には優しく教えることで信頼関係が生まれ、ケアの関係・教室づくりが進みます。

※主体的-対話的で深い学びにつなげる課題提示

基礎的・基本的内容を共有の課題で学び、少し難解な課題に挑戦することで、児童どうしの学びが生まれる授業実践をとおして主体的・対話的で深い学びの実現につなげます。

※学習を振り返り自分の学びを確かめる

授業の終わりに学びを振り返り、学習内容の習熟を図ったり、自分の学びの過程や今後の学習について自覚を深めたりして、学びに向かう力を高めていきます。

※学びを深める授業公開

教職員が2週に1度の授業研究会を開き、相互の授業参観から子どもの学びを見取ることで力量を高めていきます。

家庭・学校間連携



※家庭学習の習慣化

年度当初の学級懇談会時に、「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭での学習が習慣化できるようにしています。また、「家庭学習ふり返しシート」で取組の実態を分析・把握をして各家庭と連携しながら見届けと助言を行っています。

※地域の教育力の活用

「まこもの馬づくり」や「ケナフ栽培」による紙すき体験学習等、地域の教育力を活用した取組を教育課程に確実に位置付け、その活動を探究的な学習として個別最適化の実現につなげます。また、児童の躰を細やかに見届けます。

※東中学校区の連携

東中学校区4校での学校運営協議会や学校保健委員会、生徒指導連絡協議会等の場を生かし、児童・生徒を取り巻く家庭環境等について地域と共有することで、児童・生徒の学びあい、育ちあいを地域とともにケアしあっています。